

知って備える 防災メモ

第17回



山菜よりも大切な『あなたの命』

毎年、山菜採りに出掛けた方が遭難する事故が後を絶ちません。

遭難者の多くは山菜採りの経験者であり、たとえ毎年入っている場所であっても油断は禁物です。

山菜採りをするときは、次のことを必ず守ってください。

- **山菜採りをするときは：**
- 家族に行き先と帰る時間を知らせる
- 気象情報を確認し、悪天候の場合は中止する
- 通信手段となる携帯電話や非常食、防寒着を必ず携行する
- 単独での入山を避け、2人以上で声を掛け合い位置の確認をする
- 入山場所の地形をよく確かめる
- 崖や急斜面などの危険な場所には近づかない
- 服装は白や黄色などの目立つ色を着用する



● 遭難してしまったら：

- むやみに歩き回らず、雨、風や夜露に当たらない場所で救助を待つ
- 笛などを吹いて自分の位置を知らせる

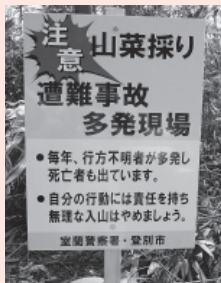
● 家族の方は：

- 警察や消防への通報が遅れると、捜索が難航して救助できない場合があります
- 必ず行き先と帰宅時間を確認し、帰宅時間に戻らないときは、警察へ通報してください。



過去3年間の 遭難事故発生件数

平成25年度	3件
平成24年度	4件
平成23年度	7件
(うち死亡1人、行方不明1人)	



山菜採り遭難事故
注意啓発看板

問い合わせ

室蘭警察署 (☎46) 0110

人が輝き まちがときめく



仲間たち

Group

レインボー体操CLUB

『レインボー体操CLUB』は主に水中での運動を通して脳と体を鍛えることを目的に、平成16年に発足し、今月で10周年を迎えます。当初2人だけだった会員が現在は24人にまで増え、毎週日曜日の17時30分から、市民プールで活動しています。

「水中では、体にあまり負担を掛けずに効果の高い運動ができます。つまずいて転倒する心配もないので高齢の方も安心して運動ができる利点があります」と話すのは、代表の荒川倫子さん。メンバーの中には関節の痛みがある方や体がうまく動かない方のほか、妊娠中の方がいたことがありますが、自分のペースで楽しく参加していました。同クラブの体操は筋肉に効率

マイペースに取り組むことができる水中の運動で体の機能を維持

よく負荷を掛けていくメニューで、一人一人の体力に合わせてマイペースに取り組める内容なので、運動が苦手な方も楽しく参加することができます。

膝の痛みを感じ始めた7年前から活動に参加している坂本たつえさんは、「歩けなくなったら困ると思い運動を始めましたが、今は毎週ここで仲間と会い、一緒に運動して、会話をするのが楽しく通っています。水の中では心地よい時間を過ごすことができます」と話してくれました。運動を継続するうちに、ひざの痛みは気にならなくなりました。

見学を希望する方は荒川さん (☎090) 9757-18318) まで。



▲水中での運動の様子

おもてなしの気持ちを表すシンボルに

「完成した手湯を見て、『登別温泉のまち』であることを再認識しました。登別温泉と玄関口・登別駅をつなぎ、観光客の皆さんを心から歓迎する、私たち市民のおもてなしの気持ちを表すシンボルのような存在にしたいですね」と笑顔で話す勝間広靖さん。

勝間さんが手湯の設置を考えたきっかけは、平成24年5月に登別駅を発着に運行された『Sしみなと室蘭号』でした。

「『Sしみなと室蘭号』の運行日、登別駅や周辺がたくさんの方や観光客で大いにぎわうのを見て、登別東インターチェンジ前や登別駅前にある鬼の像を見てもうっただけではなく、触れて楽しんでもらえるものをつくりたいと思いました。同じ頃、かつて登別駅周辺にあった旧国鉄官舎でフンベ山から湧く冷泉を風呂水に使用していた話を聞き、まちの活性化のためにも冷泉を活用できないか、商店会の仲間と相談を始めました。手湯をきっかけに、冷泉も地域の身近な観光資源との意識が高まり、地域住民同士の絆も強まりました」と、勝間さんは振り返ります。



▲手湯の雨よけ用やぐらに色を塗っている勝間さん

元気なまちの実現を目指して

さまざまな団体でまちづくり活動に汗を流す勝間さん。東京での生活を経てふるさと登別に戻り、市民の人情深さや活気などに触れ、まちへの思いを新たにします。

「市民が抱くまちへの熱い思いを肌で感じ、将来の子どもたちのために自分も何かできないかと考えるようになりました。私のまちづくりの夢は、子どもたちとおじいちゃん、おばあちゃんが手をつないで仲良く歩き、お父さんとお母さんは仕事を通してまちを盛り上げる、元気なまちを実現することです。そのためにも、私自身も楽しみながら、これからもまちの活性化に取り組んでいきたいですね」と、力を込めて話す勝間さん。市民の笑顔あふれるまちづくりのため、意欲を燃やしています。



KIRARI

かつ ま ひろ やす

勝間広靖さん(登別東町)

4月26日(土)、JR登別駅前で、登別商店会が登別市商店街活性化支援事業補助金を利用して整備した手湯『鬼っ子ゆ〜くん堂』のオープニングセレモニーが行われました。

この手湯は、登別商店会が同駅周辺のにぎわい創出と観光の一助とすることを目的に、登別港町のフンベ山から湧く水温18〜20度の冷泉を活用し、新たな観光名所となるよう整備したものです。

登別商店会副会長の勝間広靖さんに、手湯整備のきっかけや、まちづくりへの思いを聞きました。

楽しみながら、まちの活性化に取り組んでいきたい



昭和52年、登別市生まれ。36歳。

日本工学院北海道専門学校を卒業後、上京し、電気関連企業に就職。平成12年、登別市に戻り、飲食店を経営する傍ら、『登別青年会』や『登別商店会』の副会長を務めるなど、積極的にまちづくり活動に関わる。